

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和5年6月28日

鳥取県知事 様

提出者

住 所 鳥取県鳥取市東町一丁目220

氏 名 鳥取県生活環境部くらしの安心局

水環境保全課長 谷口 正一

(公印省略)

電話番号 0857-26-7402

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	天神浄化センター
事業場の所在地	東伯郡湯梨浜町はわい長瀬1517
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	下水道事業
②事業の規模	汚水 日最大処理量32,000m ³
③従業員数	8人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	水処理→汚泥処理(脱水)→場外搬出 (委託先にて汚泥をコンポスト・炭化物製品の原料として再利用する。)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
別紙参照			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	下水道汚泥	
	排出量	37,203 t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 廃棄物の性状分析の定期実施と処理状況を記録する。 ・ 搬出汚泥の含水率を下げる。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	下水道汚泥	
	排出量	36,095 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 汚泥の有効利用を図る。 ・ 搬出汚泥の含水率を下げる。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 下水道事業では、排出する産業廃棄物は下水汚泥のみである。		
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	下水道汚泥	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	下水道汚泥	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	下水道汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	32,367 t	t
	(これまでに実施した取組) ・脱水により中間処理（減量化）を行っている。 ・汚泥性状を管理し、それに適した減量化を実施している。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	下水道汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	31,464 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・汚泥性状に適した薬品の選定と添加率により減量化に努める。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	下水道汚泥	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	下水道汚泥	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	下水道汚泥	
	全処理委託量	4,836 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	1,372 t *再生利用業者と重複	t
	再生利用業者への処理委託量	4,836 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) <ul style="list-style-type: none"> ・脱水汚泥の全量を再利用業者（優良認定処理業者含む）へ搬出し、汚泥全量を有効利用した。 ・電子マニフェストによる処分の確認を徹底するとともに、毎年、現地確認を行い、処理業者に問題がなく、適性処理されていることを確認している。 		

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	下水道汚泥	
	全処理委託量	4,631 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	1,350 t *再生利用業者と重複	t
	再生利用業者への 処理委託量	4,631 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・全量、再生利用業者へ委託する。(炭化物製品原料、コンポスト)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(別紙) 管理体制図

管理体制図

統括責任者	所属：鳥取県生活環境部くらしの安心局水環境保全課長 谷口 正一
廃棄物担当	組 織 名：鳥取県生活環境部くらしの安心局水環境保全課 組織人数：2人 組 織 名：公益財団法人鳥取県天神川流域下水道公社 組織人数：3人
役割	廃棄物担当 ○廃棄物処理計画の作成 ○廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認 ○廃棄物管理状況の把握と改善策の検討 ○産業廃棄物処理施設の運転・維持管理状況の把握 ○処理業者、再生利用業者の調査、選定及び管理 ○委託契約の締結 ○産業廃棄物管理票の交付・管理 ○監督官庁への各種報告 ○職員等に対する教育・啓発 ○その他関係する事項
廃棄物管理組織	
<p style="text-align: center;">鳥取県生活環境部くらしの安心局水環境保全課長 谷口 正一</p> <p style="text-align: center;">公益財団法人鳥取県天神川流域下水道公社</p> <pre>graph TD A[鳥取県生活環境部くらしの安心局水環境保全課長 谷口 正一] --- B[公益財団法人鳥取県天神川流域下水道公社] B --- C[総務班] B --- D[管理運営班]</pre>	

汚泥処理計画（鳥取県天神川流域下水道 天神浄化センター）

実績 ← ⇒ 予定

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	摘要	
流入水量 (m ³ /年)	a	7,306,669	7,462,461	7,208,723	7,267,005	7,162,327	7,051,784	7,482,148	7,541,814	7,352,891	7,198,521	7,198,521	7,336,816	6,949,404	7,098,204	7,091,983	R4まで実績：分区分流量計での計量値	
(日平均 m ³ /日)	b	(20,018)	(20,389)	(19,790)	(19,910)	(19,623)	(19,267)	(20,499)	(20,663)	(20,145)	(19,668)	(19,668)	(20,101)	(19,039)	(19,394)	(19,430)	令和6年からの数値は、県天神川流域下水道事業経営戦略より	
発生汚泥	最初沈殿池 (引抜汚泥 m ³ /年)	c	(濃度0.70%) 194,575	(濃度0.70%) 183,284	(濃度0.64%) 218,658	(濃度0.73%) 152,342	(濃度0.83%) 203,111	(濃度0.50%) 220,939	(濃度0.60%) 209,212	(濃度0.60%) 213,554	(濃度0.60%) 187,424	(濃度0.60%) 174,407	(濃度0.70%) 150,275	(濃度0.70%) 165,689	(濃度0.70%) 171,656	(濃度0.70%) 174,856	(濃度0.70%) 175,181	
	最終沈殿池 (引抜汚泥 m ³ /年)	d	(濃度0.46%) 136,113	(濃度0.40%) 161,623	(濃度0.36%) 176,319	(濃度0.36%) 162,005	(濃度0.35%) 170,404	(濃度0.30%) 183,643	(濃度0.34%) 172,461	(濃度0.33%) 166,917	(濃度0.36%) 158,739	(濃度0.35%) 160,905	(濃度0.33%) 163,974	(濃度0.38%) 149,099	(濃度0.38%) 159,239	(濃度0.38%) 162,208	(濃度0.38%) 162,509	
	発生汚泥量 (m ³ /年)	e	330,688	344,907	394,977	314,347	373,515	404,582	381,673	380,471	346,163	335,312	314,249	314,788	330,895	337,064	337,690	
	濃縮引抜汚泥																	
濃縮引抜汚泥	重力濃縮槽 (引抜汚泥 m ³ /年)	f	#REF! 22,139	(濃度3.9%) 22,611	(濃度3.7%) 23,489	(濃度3.1%) 28,485	(濃度3.0%) 27,680	(濃度4.2%) 20,024	(濃度4.5%) 21,635	(濃度3.8%) 29,632	(濃度4.1%) 23,541	(濃度4.1%) 25,316	(濃度3.9%) 22,928	(濃度4.2%) 22,914	(濃度4.3%) 24,380	(濃度4.3%) 24,834	(濃度4.3%) 24,880	※平成25年度の23,631には初沈汚泥8,125を含む（重力濃縮槽改修工事）
	機械濃縮機 (引抜汚泥 m ³ /年)	g	#REF! 13,996	(濃度3.8%) 11,810	(濃度4.0%) 7,892	(濃度4.0%) 5,852	(濃度4.0%) 5,749	(濃度4.2%) 9,761	(濃度3.9%) 11,417	(濃度3.8%) 8,883	(濃度3.7%) 11,640	(濃度3.7%) 11,788	(濃度3.8%) 10,575	(濃度3.8%) 12,104	(濃度3.8%) 11,055	(濃度3.8%) 11,261	(濃度3.8%) 11,281	
	混合槽 (引抜汚泥 m ³ /年)	h	(濃度3.8%) 36,135	(濃度3.9%) 34,421	(濃度3.8%) 31,381	(濃度3.2%) 34,337	(濃度3.2%) 33,429	(濃度4.2%) 29,785	(濃度3.8%) 33,052	(濃度3.1%) 38,515	(濃度3.3%) 36,173	(濃度3.2%) 38,528	(濃度3.3%) 34,989	(濃度3.3%) 36,171	(濃度3.1%) 37,203	(濃度3.1%) 36,095	(濃度3.1%) 36,161	h19～消化槽設備休止 h19～汚泥貯留槽投入 h19～の本欄計上数値は濃縮汚泥量の計
	消化槽 (引抜汚泥 m ³ /年)	i	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	h19～消化槽設備休止 h19消化槽休止措置時の排泥量（場内返流量）は含まない。
脱水ケーキ生成量 (t/年)	j	(濃度21.9%) 4,816	(濃度21.7%) 4,915	(濃度21.9%) 4,825	(濃度21.1%) 4,691	(濃度21.3%) 4,596	(濃度22.2%) 5,044	(濃度22.8%) 5,281	(濃度23.7%) 5,184	(濃度22.6%) 5,128	(濃度21.7%) 5,000	(濃度21.9%) 4,753	(濃度22.8%) 4,521	(濃度22.8%) 4,547	(濃度22.8%) 4,631	(濃度22.8%) 4,639		
中間処理残さ	しき発生量・搬出量 t/年	k	(12.2)	(13.0)	(9.9)	(11.8)	(12.3)	(9.2)	(11.0)	(11.5)	(13.7)	(12.2)	(15.4)	(13.4)	(9.0)	(9.1)	(9.1)	本行数値は参考値（汚泥廃棄物量からは除外）
	沈砂発生量・搬出量 t/年	l	(2.5)	(1.7)	(2.2)	(1.3)	(0.5)	(1.1)	(1.5)	(3.8)	(4.6)	(10.0)	(8.6)	(8.0)	(4.2)	(4.2)	(4.2)	本行数値は参考値（汚泥廃棄物量からは除外）
	汚泥焼却量 t/年		4,387.6	3,343.8	4,016.8	3,206.8	61.7	55.3	57.3	60.2	17.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	しき焼却量 t/年		10.9	14.3	9.3	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	沈砂焼却量 (t/年)	m	2.4	1.6	2.1	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	焼却灰発生量 (t/年)	m'	82	48	63	49	1.4	0.8	0.9	1.2	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	場内計量値（乾燥灰） h26～30焼却設備管理運転 R1焼却設備完全停止
	焼却灰（場外搬出量）	n	103	61	84	63	0	0	0.0	0.0	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	H26～30年度発生焼却灰に加湿したものと炉内のケイ砂を合わせて22.05tをH30年度まとめて処分。
	脱水ケーキ（場外搬出量）	o	577	1,753	867	1,422	4,534	5,060	5,224	5,124	5,111	4,900	4,922	4,751	4,836	4,631	4,639	R2年度以降は、搬出先計量値 ※h22以降は再資源化原料
場外搬出量合計 (t/年)	p	680	1,814	951	1,485	4,534	5,060	5,224	5,124	5,133	4,900	4,922	4,751	4,836	4,631	4,639	R2年度以降は、搬出先計量値	
中間処理による減量分	q	35,455	32,607	30,430	32,852	28,895	24,725	27,828	33,391	31,040	33,628	30,067	31,420	32,367	31,464	31,522	本欄数値 = (混合槽引抜汚泥 - 場外搬出量合計)	
			閏年度				閏年度				閏年度				閏年度			

- 1) 令和4年度までは実績値
- 2) 青色部数値である計画値はb（流入水量日平均）行の令和4年度の実績値と計画値との比率をR4年度の各実績要素に乗じて算出している。
- 3) 汚泥の計画濃度数値等はR4年度の実績値をそのまま使用している。